

# 第58回 全国中学校社会科教育研究大会

## 大阪大会 歴史的分野

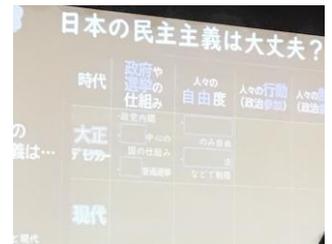
歴史的分野長 本間祐一

- 1 授業概要 「キーワード：社会参画力（本当にこれでよいか？立場を変えると？など「問い続ける力）」
  - ・学 年：中学1年生（大阪市立大正中央中学校）
  - ・単 元 名：大正デモクラシーの時代
  - ・本時の目標：当時の人々がデモクラシーの実現のため、さまざまな模索をしていたことに気付く。  
人々や社会の動きを通して、民主主義について考える。
  - ・導 入：既習の大正デモクラシーを振り返り、現在の民主主義と比較していくことを教師が方向付ける。
  - ・課題となる問い：「日本の民主主義は大丈夫？」
  - ・展 開：大正と現在の民主主義を「政治の仕組み」「人々の自由度」「人々の政治参加」「人々の熱意」の四側面からまとめ、比較する。
  - ・ま と め：大正の女性運動家である市川房江を想定し、現在の民主主義について、「大丈夫か、大丈夫ではないか」を選択し、根拠を示しながら手紙形式にまとめる。



### 2 授業考察 「社会参画力」に関わって

上述した通り大阪府中社研では、現代の予想もつかない課題に直面したとき「本当にこれでよいのか」「他の立場から見るとどうか」と問い続けながら、より良い社会をめざす力を「社会参画力」と定義している。めざす方向としては岐中社と同様であり、私たちの研究を省察する機会となった。

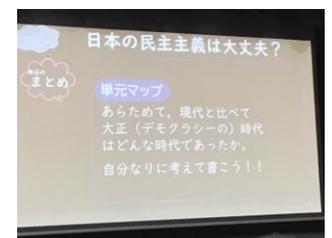


#### ①概念的知識

大正時代の民主主義について、既習事項の「政治の仕組み」「人々の自由度」「人々の政治参加」「人々の熱意」から記述させ、大正時代の「(世界的な影響を受け、)民主化が大きく前進した時代である」ことをつかませていた。しかし、概念的知識は個々でつかめていたかもしれないが、全体で共有する場面がなく、次の展開である「参画の問い」の前に共有すべきだと感じた。これは、我々の一単位時間にも同様のことが言える。

#### ②参画の問い

市川房江を想定し、大正時代と比較しながら現在の民主主義について手紙で伝える活動を通して、大正デモクラシーについての認識を深めることをねらった。公民的分野を未履修の生徒たちにとって、根拠となる事実が限られていたが、生活経験を駆使しながら記述していた。大阪府中社研もその点は想定しており、過去の政治的な意思決定の解釈や吟味の経験を蓄積することで、「潜在的な社会参画(思い付きの形式的な参画ではなく)」をねらっていた。方法は違えど、岐中社のめざすところに近い面もあると感じた。



### 3 これからの岐中社の研究に関わって

現在の岐中社歴史的分野では、公民との接続を念頭に「価値に関する認識を形成する授業」の在り方を追求している。特に一単位時間の後半、獲得した認識に関わる事象(例：欧米から国を守るために、井伊直弼が修好通商条約を結んだという行為)について、その判断の是非を問うことに力点を置いている。大阪大会においても、歴史的分野で社会参画力を身に付けることに力を注いでいた。岐中社においては、現在の研究の方向を大切に、来年度の美濃地区大会を目指し、県内の先生方で一丸となって研究・実践を進めていきたい。